

四つの約束を掲げて 短期教育の魅力を創る

学長 中村幸弘



國學院大學栃木短期大学も、百二十八年前の明治十五年、有栖川宮幟仁親王の告諭をいただいて創設された國學院大學の建学の精神をそのまま承けて設立された。國學院大學の關係諸教育機關は、その精神を、時代々に即応させて引き継いで、それぞれに意義ある存在となっている。その告諭や、長く歌い継がれてきている校歌からは、國學院が、日本人を意識して日本人の生き方を体得する場であると、直ちに理解される。その学問研究を通して、日本文化の真髄を窮め、その自負する誇りを世界に発信し、広く外国の人々と交流していきける日本人を教育する場である

と、位置づけられ、評価されてきている。

いま、情報化と国際化とが地球の上を狭くしている二十世紀だが、それだけに、どんな日本人を教育して世界に送り出すかが、大きく注目されている。日本人が伝統を重んじて培ってきた勤勉さ・忍耐力・協調性は、日本文化に潜んでいて、国際社会が期待している人間像なのである。謙虚ななかに勇氣と正義感を秘めている人間は、どのような風土や文化から生み出されるのか、世界の大きな課題である。

学校制度は、確かに、その国の将来を決定づけるものともいえよう。大学・短期大学への進学率が五十パーセントになろうという、この国が、大学の教育は、必ずしも十全とはいえない。世は、ただ、入学に向けてだけ競争を続け、公立までが中・高一貫化し、さらには、小・中一貫ま



総合ガイダンスで、本学の学びの特色を真剣に聞く新入生

でが試みられている。いや、さらに、中等教育学校が、この数年の話題である。その一方に、フリースクールが、多様に多様を重ねている。

いったい、いっどこで、生涯弛むことない意欲を抱きつづけることができるようになるのであろうか。結果の見える労働を喜び、文化や芸術の享受を楽しむ、その体質の養成をこそ、教育の究極の眼目に位置づけなければならぬ。この時代、二年の短期に完成を強いられる短期大学にこそ、その全人教育が可能となる。そして、國學院大學栃木短期大学だけが、そ

れを可能たらしめる確かな大学である。

在学生諸君にはもちろん、本学への志願者諸君に向けて、次の四つの約束を掲げたい。

それには、諸君の一人ひとり、自分をどんな自分にしたいか、希望を述べてくれないければならない。そのうえで、本学は、諸君全員を、次のようにきつときつと教育すると約束する。

- ◇培った教養を社会生活において活かしていける日本人
- ◇自立した職業人として、主体的に判断できる日本人
- ◇情報を適切に受けとめ、行動に結びつけていける日本人

◇国際化時代を意識し、世界の人々と共生していける日本人

本学は、斯花アワーという時間を配して、学級担任との接触が緊密である。オフィスアワーも配されていて、全教員と容易に接触できる。学生相談室も学生支援室も充実している。どうぞ、遠慮なく、どういった自分になりたいか、言っしてほしい。資格取得でも、就職試験でも、編入試験でも、

本学は、諸君の希望を叶えることを使命としている。本学の教職員は、こぞって諸君の支援に最大限の努力をしようとしているのである。

本学は、この四十四年の間に、二万二千八百八十五名の卒業生を世に送り出している。

北関東だけでなく、広く全国において、職場において家庭において、この日本の国を支えている。海外在住者も、また、留学生として来日、既に帰国している方もいよう。その卒業生の皆さんには、いま、本学は、ここに新たに、建学の精神の解釈を四つの約束として公示したものと受けとめてほしい。歴代の学長が、それぞれの時代に即して示された解釈と、併せて受けとめていただきたい。

本学は、いま、カリキュラムを始めとして、すべての教育活動において、ここに示した四つの約束の實踐に努めている。全教職員が、一人ひとりの学生に向けて、その働きかけに取り組んでいる。卒業生の皆さんにも、そのご協力がいただきたいと願っている。